



1. 小松高校 → 大田科学高校

平成18年12月20日(水)～23日(土)の3泊4日の日程で、本校より生徒7名と教諭3名の10名が、韓国において科学研修を行いました。主な目的は、大田科学高等学校において、英語での科学発表や生物実験の授業の参加などの科学交流であり、他に、国立科学博物館の見学、現代自動車工場の見学を行いました。また、生徒はホストファミリー宅において、科学的な交流だけでなく文化的な交流を通して、韓国のことを知るだけでなく、日本文化についても再認識しました。このように充実した科学研修を韓国で行いました。

スケジュールは以下の通りです。

20日(水)	小松空港から仁川国際空港へ～ソウル市内で夕食 ～ソウル市内のホテルへ (科学交流に向けてのプレゼンの最終チェック)
21日(木)	ソウル市からKTXで大田市へ～国立中央科学館の見学 ～大田市内で昼食～大田科学高校に到着 (歓迎会・学校内の見学・両校による英語での科学発表) ～大田市内で夕食(ホスト家庭と共に)～ホスト家庭宅へ
22日(金)	ホスト家庭宅から大田科学高校へ～生物実験の授業の参加 ～大田市から牙山市へ～牙山市で昼食 ～現代自動車牙山工場の見学～ソウル市内で夕食 ～ソウル市内のホテルへ
23日(土)	ソウルから仁川国際空港へ～仁川国際空港から小松空港へ

- 20日(水) -

出発の数週間前から、英語での科学発表の準備のために、プレゼン原稿の英訳に毎日遅くまで取り組みました。前日のソウルのホテルでも、プレゼンの最終チェックのため、深夜までプレゼンの練習を行いました。

- 21日(木) -

KTXに乗り、科学交流の目的地である大田市に向かいました。午前中は、韓国での科学技術と文化を知るために、国立中央科学館を訪れました。この科学館は、科学技術による先進化をテーマに、韓国科学技術の先端を紹介する施設であり、天体館・探求館・常設展示館など多数のテーマ館がありました。一巡することで、韓国の優れた技術水準を知ることができるだけでなく、衣食住における韓国文化についても知ることができました。



昼食後、大田科学高校に着きました。校内では、多数の生徒から盛大な歓迎を受けて、快く科学交流を進めることができました。



まず、校舎内を案内され、一見、大学の研究室かと思われるような実験設備等を見せてもらいました。その後、両校による英語での科学発表を行いました。なお、交流の様子は、インターネット回線を通して小松高校にも配信されました。生徒達は、非常に緊張した様子ではありましたが、前日までの周到な準備のため、満足な科学発表を行えました。



夕方、大田市内のレストランで、ホームステイ宅の家族と共に食事をしました。その後、本校の生徒達は各のホームステイ宅に向かいました。



**- 22日(金) -**

生徒達は、各のホームステイ宅から大田科学高校に着きました。どの生徒もホームステイ宅では、快く迎えてもらい、韓国文化を学ぶ良い機会となりました。また、夜遅くまで韓国生徒と交流を深め合い、充実した時間を過ごしました。学校では、微生物にアドレナリンなどのホルモンを投与する生物実験の授業に参加しました。科学高校での授業の様子を知る機会となりました。その後、グラウンドで記念撮影をして科学交流を終えました。



大田市から牙山市へ向かい昼食を済ませてから、現代自動車牙山工場を見学しました。社内案内の動画では、英語だけでなく、世界複数の言語での説明に対応したシステムがあり、日本語での社内説明を受けました。その後、工場内を生産工程の順に見学しました。日本の工場現場と同じく、自動化されたシステムを見せてもらい、韓国の物造りでの技術力の高さを痛感しました。その後、牙山市からソウル市内へ向かい、市内で夕食を済ませて、市内のホテルに泊まりました。

**- 23日(土) -**

韓国での科学研修で得たことを大切に、ホテルから仁川国際空港に向かい、小松空港へ向けて飛び立ちました。



**2. 大田科学高校 → 小松高校**

平成19年1月12日(金)～15日(月)、韓国・大田科学高校の生徒10名と学校長を含む引率教員3名の計13名が本校を訪れました。この来訪は12月に行われた本校生徒の科学高校訪問を受けての交流事業です。科学高校の生徒たちは理数科の生徒や本校教員の自宅で3泊4日のホームステイをして、科学的な交流のみならず、文化的な交流などを通して親交を深めました。



スケジュールは以下の通りです。

12日(金)	小松空港着 ～ 2年学年集会で歓迎会 (テコンドー、ナンタ披露) ～ 茶道部による歓迎茶会 ～ 歓迎夕食会 ～ ホスト家庭宅へ
13日(土)	《 本校理数科の生徒と共にバス・ツアー 》 福井・恐竜博物館 ～ 手打ちそば体験 ～ 雪の科学館 ～ ホスト家庭宅へ
14日(日)	ホスト家庭と共に県内観光など
15日(月)	北陸先端大に視察 (研究施設見学、韓国人留学生と懇談) ～ 2の8ホーム生徒と昼食会 ～ 小松空港発便で韓国へ

**- 12日(金) -**

2年生による歓迎会では科学高校男子生徒3名が伝統武術テコンドーの型を、残りの生徒が伝統音楽「ナンタ」を披露し、本校生徒から大きな拍手を浴びました。また、理数科の代表生徒が九谷焼のマグカップを記念に贈呈しました。



歓迎茶会では慣れない正座や作法に戸惑う様子も見られましたが、抹茶の苦みと甘い和菓子の調和に感心していました。



歓迎夕食会には吉田PTA会長、下徳PTA副会長、ホストファミリーの生徒及び家族などが出席しました。両校校長が最初の挨拶で、科学教育の推進に協力しあっていくことを誓い合いました。科学高校の生徒たちは今回の滞在で最初の和食を味わい、歓談の輪を広げました。



- 13日(土) -

この日は一日、科学高校を訪問した理数科の生徒たちと共に、近隣の施設を見学しました。

まず訪れた福井県勝山市の恐竜博物館では、そのスケールの大きさに驚き、熱心に展示物に見入っていました。



そば打ち体験では、88才の名人による指導のもと、そば粉と小麦粉に水を加えて種をこねるところから作り始め、両校生徒の共同作業でおろしそばを完成させました。時間と手間をかけてようやく出来上がったそばがとても美味しかったのか、3杯、4杯とおかわりをするものもありました。



雪の科学館では単なる施設見学ではなく、神田健三館長による様々な実験や観察も紹介されました。本校の卒業生である中谷宇吉郎博士の多面的な業績に、科学高校の生徒、先生方は強く印象づけられた様子でした。



- 14日(日) -

各ホストファミリーと共に県内の名所を訪れたりしました。天候にも恵まれ、兼六園を散策した家庭も多かったようですが、中にはクラスの他の生徒も自宅に招き、交流の輪を広げたグループもありました。

- 15日(月) -

科学高校一行は午前中、北陸先端科学技術大学院大学を視察しました。この訪問は、本校SSH運営指導委員である小野寛晰副学長に橋渡しをしていただき実現したものです。各研究施設を見学し、また、同大学で学ぶ韓国人留学生とも懇談する機会も与えられました。生徒たちは学ぶ環境と研究設備の素晴らしさに感心していました。

昼頃学校に戻り、2年理数科の生徒たちとの昼食会はリラックスした、和やかな雰囲気で行われました。まず、辻勝哉君が歓迎スピーチを、引き続き科学高校の生徒が自己紹介をしました。将来は研究者、大学教授、会社重役といった明確で高い志を全ての生徒がもっていました。まだ1年生でありながら、その英会話能力の高さに理数科の生徒たちは驚いていました。科学高校を訪問した生徒たちとは既にかなり打ち解けた関係を築いていて、さらに後半は普通科の生徒たちも加わり、様々な話題で大いに盛り上がりました。名残惜しい中、科学高校のキム・ミンホー君がお礼の挨拶をして昼食会は終わりました。



最後に応接室で早川教頭とチョン・コンサン校長がそれぞれ韓国語で別れの挨拶を交わし、一行は数多くの思い出を胸に刻んで小松空港より帰国しました。

~参加生徒の感想~

●今回、韓国の学生と3泊4日を過ごしてまず思ったことは、韓国の学生は積極的だなということである。自己紹介のときも家で話すときもいろんなことに疑問を持ち、しっかり聞いてきた。それに比べて、私は疑問・質問があっても聞かずにいたりすることがよくある。(今回の場合は英語を話すことに引け目を感じ・・・)しかし、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」。それを国は違えど同年代の子が実行しているのをみて、授業中や日常生活で積極的に疑問を持ち、質問していかねばと思った。  
(1年理数科女子)



●今回は学校という範囲のみならず、ホームステイや街を歩くなどして、韓国人の生活というものに少しでも触れられたと思う。世界中のいたるところで、相違はあるにせよ人々の営みがあるのだと思うと、なんだかウキウキする。先日、科学高校の生徒が来校したが、彼らにも同じような気持ちを感じてほしい。同時にいったい自分は日本のことさへろくに知っているだろうか心配になった。異国人と話すときには、相手の国のことを知るのはもちろん大切だけど、まず自国を知らなければ話にならないと思う。キム君も「日本人はもっと日本文化を愛すべきだ」と言っていた。僕はドキッとしたが、うれしかった。(2年理数科男子)

●今回の韓国ホームステイを通して、3つの変化がありました。まず1つ。勉強の捕らえ方が変わったことです。試験のために丸暗記しても人生にとってまったく意味がない。何にも考えずに公式を覚え、式の意味を理解する！数学や物理は考えてなんぼ！英語はしゃべれてなんぼ！コミュニケーションがとれてこそ意味が生まれる！2つ目。「自分の趣味を極めること！」嫌いなことをやる必要はない。強制される必要はない。自分の好きなことだから楽しんでやれる。いいことづくめですね。そのおかげで最近勉強が楽しいです。試験のためではなく自分のためにやっていますから。3つ目。「敵は誰だ？自分だ！」聞いたところによると、テジョン高校ではテレビはなしで、生徒は時間のほとんどを己の鍛錬に費やしているらしいですね。人生を潤い豊かにするのは自分、乾いたものにするのも自分。成功の最大の要因も失敗の最大の要因も自分！残りセンターまで362日。全力且つ楽しみながら勉学に勤しみたいと思います。  
(2年理数科男子)

●会話に関しては学校で約5年間英語の勉強をしてきたけれども、それを実際に使って会話することに慣れていなくて、最初のほうはうまく相手の英語を聞き取れなかったり、自分の言いたいことをうまく英語で伝えることができなかったりして悪戦苦闘した。でも、会話を繰り返すうちに少しずつ慣れてきて、自信を持てるようになった。その際、自分なりに思ったことは、失敗を恐れてはいけないということだ。多少の文法の誤りやニュアンスの違いがあってもお互いに相手は何を言いたいのかはきちんと伝わる。でも、失敗を恐れて何も言わないので当然何も伝わらないので、片言でもいいから積極的に話すことが大事であると実感した。このことを実感できたのが今回の交流の一番の収穫であると思う。  
(2年理数科男子)



●日本でのホームステイの3泊4日も楽しいものでした。たった三日間だけど、英語を話すことが自然になり、また、文法を必要以上に気にする必要がなくなり会話も弾みました。文法の知識がしっかり土台にあるので、慣れれば簡単に英語を話すことが出来ると思いました。  
(2年理数科男子)



●科学高校の生徒はいい趣味をもっていて、素晴らしいと思いました。本棚にはなにやら難しそうなお本がズラリと並んでおり英語の本もたくさんありました。僕は夏休みに英語と同じくらの時間を費やし韓国語を勉強しました。そして覚えた韓国語で家族の方とも積極的に話しました。朝食がおいしいと言うとお母さんはたいへん喜んでいました。家族の方にはとても親切にいただき、感謝の気持ちで一杯です。(2年理数科男子)

●パートナーの部屋を見せてもらったときに一番驚いたのは、彼が趣味として英語でかかれた分厚い小説を何冊も持っていて、すでにどれも完読していたということだった。それに彼は日本で言う知恵の輪やパズルなどといったものを多く持っていて、それをおもしろいと言っていた。自分とはおもしろいの捉え方が違う、とそのとき感じた。(2年理数科男子)

●やはり向こうの生徒はそれなりに英会話のできる人が多いと思いました。授業も体験しましたが、日頃から英会話に慣れているみたいでした。せっかく小松高校には2人のALTの先生がいるので、日常からどんどん積極的に会話をする機会をもっと増やしていけばよいと思いました。  
(2年理数科男子)